

科目名 (英)	キャリアデザインⅡ (Career DesignⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 1組:金曜日2限/2組:木曜日3限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験を積んだ教員が歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科衛生士のやりがいや医療従事者としての心構えを習得する授業を行う。歯科衛生士としての将来像を明確にしていって欲しい。また、医療従事者として必要なスキル(知識・技術・心構え)を修得する為に学ぶべき事は何か、常に考えながら受講して欲しい。医療従事者になるものとして遅刻欠席はなるべくしないように注意して授業に臨み自分のことだけでなく、周りを見て行動できる人になって欲しい。また、社会に出る上で必要なスキルを積極的に習得して欲しい。							
【到達目標】 他者理解・自己理解を深める事で、対人業務に必要なコミュニケーション能力や自己形成能力を身につける。 臨床実習に向けて、実習生としての態度を身に付け、専門的な知識・技術の向上に努めることができる。 臨床現場で必要な専門知識・技術を習得する。 歯科衛生士になる夢の実現を本気で考えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 わからないことや疑問に感じたことはそのままにせずに自分で調べる力を付ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 他者理解・伝える力とは 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 他者へ意見を共有し、理解する。 話の要点を捉え、自分のことばでまとめることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】1年次の復習・他者との協同 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 相互実習に必要な知識・技術を復習する。 正しい手順で染め出し、PCRを算出できる。 必要な情報をまとめ、適切な口腔清掃指導ができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】臨床実習に向かうために 【授業形態】 演習 【到達目標】 体調管理のために必要な知識を学び自分に当てはめることができる。 得られた知識をもとに体調管理に役立てることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験/前半の学習方法の振り返り 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前半の学習方法から、計画・方法が適切であったか振り返る。 あなたの記憶の仕方は何タイプですか。 認知特性と共に、自分に合った学習法を見つけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】臨床実習を目指すために 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人と接するために必要なコミュニケーション力を身に付けることができる。 身だしなみ、所作、挨拶、言葉遣いができるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 実習記録の書き方について① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 グループワークで症例を検討し、要点を把握して説明ができるようになる。 記入例をもとに、実習記録を模写できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 実習記録の書き方について② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 実習記録の要点を把握し説明できる。 自身の知識と教科書に基づき実習記録に症例をまとめることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説/将来の創造 【授業形態】 講義 【到達目標】 プロを目指すために、将来を考えることができる。 臨床実習、進路、就職を意識することができる。				【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:実技・出席率・身だしなみ・提出物 定期試験(60点満点) 実施方法:出席率・提出物・筆記試験		
【特記事項】 体調管理も仕事のうちです。社会人としての基礎力を身につけましょう。講義の他に課題を提出してもらいます。							

科目名 (英)	口腔衛生学(衛生統計学含む)Ⅱ Oral HealthⅡ (Hygiene statistics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 4時限(1組)3時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師であり、現在も歯科大学で教鞭をとる教員が、広く人々の健康状態を高め生活の質を向上させることのできる歯科衛生士の育成を目的に講義を担当する。 必要な知識である歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因について、またその要因を除去し口腔の健康と機能の維持増進を図る手法に関する講義内容となる。 受講する学生は、社会に貢献できる歯科衛生士を目指し意欲的に講義に参加してほしい。							
【到達目標】 ライフステージごとの口腔保健管理を列挙できる。 地域保健の仕組み、特徴を述べるができる。 公衆衛生活動に関する領域(母子、学校、成人、産業、高齢者)における歯科医療従事者の関わりを説明できる。 精神保健、災害時保健、国際保健領域における歯科医療分野の関わり方について具体的に述べるができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 『最新衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』 配布プリント				【授業外における学習】 返却された小テストは内容を振り返り、知識を理解、定着させておくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】ライフステージごとの口腔保健管理 【授業形態】講義 【到達目標】 妊産婦期、乳幼児期、小児期、成人期、老年期それぞれの口腔保健管理の特徴について述べるができる。			9	【授業単元】成人保健 【授業形態】講義 【到達目標】 成人保健に関わる行政組織、関係法規を列挙することができる。 成人保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。		
2	【授業単元】地域保健・公衆衛生① 【授業形態】講義 【到達目標】 地域保健の主な対象、法令、関係行政機関、主な活動について列挙することができる。			10	【授業単元】産業保健① 【授業形態】講義 【到達目標】 産業保健に関わる行政組織、関係法規について列挙することができる。		
3	【授業単元】地域保健・公衆衛生② 【授業形態】講義 【到達目標】 地域保健活動の進め方を具体的に述べるができる。			11	【授業単元】産業保健② 【授業形態】講義 【到達目標】 産業保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。		
4	【授業単元】地域保健・公衆衛生③ 【授業形態】講義 【到達目標】 健康づくり施策、地域歯科保健の変遷について説明することができる。			12	【授業単元】高齢者保健 【授業形態】講義 【到達目標】 高齢者保健に関わる行政組織、関係法規を列挙することができる。 高齢者保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。		
5	【授業単元】母子保健① 【授業形態】講義 【到達目標】 わが国の母子保健施策について列挙することができる。			13	【授業単元】精神保健 【授業形態】講義 【到達目標】 精神保健に関わる行政組織、関係法規を列挙することができる。 精神保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。		
6	【授業単元】母子保健② 【授業形態】講義 【到達目標】 母子保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。			14	【授業単元】災害時保健/国際保健 【授業形態】講義 【到達目標】 災害時保健および国際保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。		
7	【授業単元】学校保健① 【授業形態】講義 【到達目標】 学校保健の領域構造を説明することができる。			15	【授業単元】定期試験 試験終了後解答、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 国家試験の問題形式に慣れる。 弱点領域を認知し、克服する。		
8	【授業単元】学校保健②/中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 学校保健領域における口腔保健分野の関わりについて、具体的に述べるができる。			【評価について】 評価は筆記試験(マークシート)で行う。試験は、講義内で学習した知識の修得を確認する内容とする。評点は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計から算出する。			
【特記事項】 遅刻、早退、欠席のないようにする。やむを得ずそのような事態となった場合には、講義内容を同級生や配布プリントから必ず確認しておくこと。 講義時には、教本と配布したプリントを持参すること。							

科目名 (英)	保存修復学 (Operative dentistry)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1組2時限/2組1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 日本歯科保存学会認定医のドクターが、保存学とはどのような学問であるのかを学び、基礎歯学や臨床他学科との関連について理解することにより保存修復学の位置を習得する。							
【到達目標】 保存修復学分野の診療に際し、必要な知識を取得し、各修復法の目的を理解し、必要となる器財、材料の使用法についての知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士教本『歯の硬組織・歯髓疾患 保存修復・歯内療法』				【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので予め教科書を読み、予習してくる。また、授業後は復習し知識をより確かなものとするのが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯の保存修復とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯の保存学を学ぶ基礎知識として必要な歯式、歯面表示法、口腔内診査法、診査器具などの知識を確実に習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 窩洞と保存修復治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 保存修復学の概要として保存修復の意味、修復方法、対象となる疾患、特に齲蝕の病態について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 保存修復治療の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 修復時の歯髓障害とその要因について理解する。時として必要な前処置、つまり防湿法、歯間分離、歯肉排除法等の概要を習得し、歯牙の切削に関して、その器具を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・コンポジットレジン修復 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ここまでの知識を整理する。コンポジットレジンの組成を知り、その特徴を理解する。コンポジットレジン修復の適応症と術式を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 コンポジットレジン修復・グラスアイオノマー修復 【授業形態】 講義 【到達目標】 コンポジットレジン及びグラスアイオノマーセメントの組成を知り、その特徴を理解する。コンポジットレジン修復及びグラスアイオノマーセメント修復の適応症と術式を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 間接修復法 【授業形態】 講義 【到達目標】 メタルインレー修復、セラミックインレー修復、コンポジットレジンインレー修復、ベニア修復の特徴、術式を習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 歯のホワイトニング 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯の漂白法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 保存修復学分野の診療に際し、必要な知識を取得し、各修復法の目的を理解し、必要となる器財、材料の使用法についての知識を習得する			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験40点と定期試験60点の合計100満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義においてノートを丁寧にとること。							

科目名 (英)	歯内療法学 (Endodontics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1組2時限/2組1時限
学科・専攻	歯科衛生士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 日本歯科大学附属病院総合診療科に所属のドクターが歯の保存療法としての歯内療法学とは、どのような学問なのかを学び、その術式、使用器具、薬剤についての知識を学習する。							
【到達目標】 歯内療法の対象となる歯髄炎、根尖性歯周炎について学び、術式、使用器具、使用薬剤について学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士教本『歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』				【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので予め教科書を読み、予習しておくこと。また、授業後は復習し知識をより確実なものとするのが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯内療法の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯内療法学の対象となる疾患、歯髄炎、根尖性歯周炎について基礎知識を習得し、歯内療法学の概要を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の症状と診断、処置 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯髄炎、根尖性歯周炎での各症状を習得し、処置方針を学び、術式の概要を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯髄の保存療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯髄疾患が軽度の場合は、歯髄を保存する歯髄鎮静法・覆髄法がある。その保存療法についての種類、方法、術式を学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・歯髄の除去療法・歯髄切断法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ここまでの知識を整理する。歯髄除去療法の1つである歯髄切断法についての意義・術式を学び、治療方法を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 歯髄の除去療法・抜髄法 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯髄疾患が進行した場合に行われる抜髄法について、術式、使用器具、薬剤を学び、理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 根管治療・根管充填 【授業形態】 講義 【到達目標】 根尖性歯周炎に対する処置として行われる根管治療についてその術式、使用機材、使用薬剤について学ぶ。根管治療の最後に行われる処置である根管充填に対し、その目的、術式、使用器材、使用薬剤について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 外科的歯内療法・歯内療法における偶発症 【授業形態】 講義 【到達目標】 外科的歯内療法の意義、適応症、術式を学ぶ。また、歯内療法治療中に起こるであろう偶発症について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯内療学分野の診療に際し、必要な知識を取得し、各修復法の目的を理解し、必要となる器財、材料の使用方法についての知識を習得する				【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験40点と定期試験60点の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義においてノートを手帳に取ること。							

科目名 (英)	歯周治療学 (Periodontics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 4時限(1組)3時限(2組)
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
歯科医師として臨床現場で活躍中の講師が担当する。 歯周病学は範囲が広い科目ですが、実際に歯科衛生士が患者さんを治療する分野となりますので、しっかり知識を身に付ける必要があります。授業中は覚えることに集中するよりも、理解することを心掛けてください。毎回の講義を大切に、時間を有効活用しましょう。							
【到達目標】							
歯周治療学における総論を理解するために、基本的な事項を学習しながら、臨床に必要な知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
歯科衛生士講座「歯周病学」(第3版) 永末書店 歯周病学サイドリーダー (第6版) 学建書院				なし			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 ガイダンス、歯周組織の解剖・組織・整理・病理 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯周病学を学ぶために、その概要を理解する。 歯周組織の解剖・組織を説明できる。 歯周組織の生理学的機能や病理について理解する。			9	【授業単元】 歯周計画・歯周基本治療 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯周治療の手順を知る。歯周基本治療の目的・内容を理解する。 ブラークコントロールに必要な手段・ツールについて確認する。 スケーリング・ルートプレーニングについて確認する。		
2	【授業単元】 歯周組織の解剖・組織・整理・病理/歯周病の病因・リスクファクター 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯周組織の解剖・組織を説明できる。 歯周組織の生理学的機能や病理について理解する。 歯周組織に炎症が起こるまでの過程を理解する。			10	【授業単元】 再評価・歯周外科治療(1) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 再評価の目的・方法を知る。 歯周外科の目的・意義・種類について知る。		
3	【授業単元】 歯周病の病因・リスクファクター 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯周組織に炎症が起こるまでの過程を理解する。 炎症を起こすリスクファクターについて理解する。			11	【授業単元】 歯周外科治療(2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯周外科の目的・意義・種類について知る。		
4	【授業単元】 歯周病の徴候と病因 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯肉に起こる炎症、それに伴う臨床状態について知る。 歯肉炎と歯周炎の違いが説明できる。			12	【授業単元】 分岐部病変の処置 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 分岐部病変の検査・処置方法について理解する。		
5	【授業単元】 各種歯周炎の分類と臨床的特徴(歯周炎) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種歯肉炎の特徴・原因・症状・処置について理解する。			13	【授業単元】 口腔機能回復治療・インプラント・薬物療法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 口腔機能回復治療の目的・内容を知る。		
6	【授業単元】 歯周病の分類と臨床的特徴(歯周炎) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種歯肉炎の特徴・原因・症状・処置について理解する。			14	【授業単元】 メインテナンスとSPT・ペリオドンタルメディシン 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 メインテナンスとSPTの意義・内容について知る。 ペリオドンタルメディシンの概念を知る。		
7	【授業単元】 歯周病の検査と診断 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯周組織の検査の目的について知る。 検査により得られた結果が何を意味するのか理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 今まで(1～14回分の講義)に得た知識を整理する。 定期試験。試験後、解説。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 今までに得た知識を整理する。中間試験。試験後、解説。			【評価方法について】 授業への参加態度、小テスト、中間試験、定期試験の合計100点満点で評価を行う。			
【特記事項】							
基本的に講義スライドの提供は行わない。必ず教科書を予習してくる。各自、講義時にノートを作成することを推奨する。							

科目名 (英)	歯科補綴学 (Prosthodontics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1時限(1組)2時限(2組)
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 保有資格 : 歯科医師 歯学博士 明海大学歯学部非常勤講師 ヘルスサイエンス大学ラオス国立客員教授 ヘルスサイエンス大学カンボジア王国国立客員講師など。この歯科補綴学の授業を通し、皆さんには歯科医療専門家として患者さんのニーズに応えるだけでなく、頼られる医療人になってもらいたいと考えています。皆さんにとって有意義な授業になるよう、実際の医療現場を伝えたり、他科との繋がりを考え方も伝えたいと思っています。歯科医院に通院するほ ぼすべての患者さんの最終目的であろう安心して食事ができるための補綴装置をしっかりと学んでください。							
【到達目標】 歯科における補綴の意義と目的を学術的・臨床的に理解する。補綴歯科治療は、歯や顎などの欠損といった身体の障害を克服して、生き生きとした生活が送れるよう支援する医療である。補綴治療の各ステップを修得し、治療前、治療期間中、補綴物装着時・装着後の各々の段階に応じて歯科衛生士が行う診療補助および患者指導を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版				【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので、予習はしてください。また、わからない専門用語は必ず質問してください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科補綴の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 補綴歯科治療の目的を概説できる。歯の欠損に伴う生理的変化を説明できる。補綴装置の種類と特徴を概説できる。			9	【授業単元】 有床義歯治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 有床義歯治療の特徴を概説できる。		
2	【授業単元】 歯科補綴の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 補綴装置の種類と特徴を説明できる。補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を概説できる。			10	【授業単元】 有床義歯治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 全部床義歯治療の流れを概説できる。		
3	【授業単元】 補綴歯科治療の基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 補綴歯科治療における咬合と歯列にかかわる基本的な用語を概説できる。口腔機能の特徴を説明できる。			11	【授業単元】 有床義歯治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 全部床義歯治療の患者への説明と指導が実施できる。全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応が説明できる。		
4	【授業単元】 補綴歯科治療における検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔内の検査を説明できる。咬合と顎機能検査の種類と特徴を説明できる。			12	【授業単元】 有床義歯治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 部分床義歯治療の特徴を概説できる。		
5	【授業単元】 クラウン・ブリッジ治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説できる。			13	【授業単元】 有床義歯治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 有床義歯治療の流れを説明できる。		
6	【授業単元】 クラウン・ブリッジ治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる。			14	【授業単元】 有床義歯治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 部分床義歯治療の患者への説明と指導が実施できる。部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。		
7	【授業単元】 クラウン・ブリッジ治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験 40点 定期試験60点			
【特記事項】							

科目名 (英)	口腔外科学 (Oral and Maxillofacial Surgery)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3時限(1組)・4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師及び大学教授である講師が授業を担当する。 歯科衛生士として必要な口腔外科学と歯科麻酔学の知識を習得するために、顎口腔領域の疾患、口腔外科の実際および歯科治療と麻酔(救急蘇生を含む)に関する講義を行う。講義範囲が非常に広く覚えるべき事は多岐にわたるため、単なる暗記ではなく、一連の知識を関連付けて理解することが必要である。また復習をしっかりとって知識の定着を図り、基礎科目の知識の再確認を行う。							
【授業の学習内容と心構え】 口腔外科学・歯科麻酔学の概要、疾患を学び、歯科衛生士として必要な知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔 第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修				【授業外における学習】 専門用語、定義、分類、治療(道具、薬剤、術式など)覚えるべきことが多岐にわたるため、予習復習が必須である			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 口腔外科概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 各疾患の疾患の特徴と治療原則を理解する			9	【授業単元】 口腔外科治療における診察と診断・問題となる全身疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔外科治療における診察と診断について理解する。歯科診療で問題となる全身疾患について理解する。		
2	【授業単元】 先天異常・変形症 【授業形態】 講義 【到達目標】 病因論と治療法を理解して、説明が可能となる			10	【授業単元】 口腔外科手術の準備・手術の基本手技 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔外科手術の準備・手術の基本手技について理解する。		
3	【授業単元】 損傷・外傷と創傷処置・粘膜疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 顔面外傷、顎骨骨折、口腔内の外傷および口腔粘膜疾患について理解する。			11	【授業単元】 口腔外科小手術 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔外科小手術の手順、器具および基本理念について理解する。		
4	【授業単元】 炎症・嚢胞 【授業形態】 講義 【到達目標】 炎症総論と口腔と顎周囲の炎症の種類、診断、治療法について理解し、口腔衛生管理との関連性を認識する。嚢胞の原因、種類と治療法について理解する。			12	【授業単元】 歯科麻酔と患者管理・局所麻酔 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科麻酔における患者管理を理解し、局所麻酔の方法、目的などについて理解する。		
5	【授業単元】 腫瘍および腫瘍類似疾患・顎関節疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍および腫瘍類似疾患に対する診断と治療法を理解する。顎関節疾患の症状、診断、治療法について理解する。			13	精神鎮静法と全身麻酔 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神鎮静法の準備助助と全身麻酔の原理について理解する。		
6	【授業単元】 唾液腺疾患、口腔領域の神経疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 唾液腺疾患および口腔領域の神経疾患の症状、診断、治療法について理解する。			14	【授業単元】 救急蘇生法・口腔健康管理 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科診療における患者急変時の的確な対応を理解する。歯科衛生士が担う周術期の口腔健康管理を理解する。		
7	【授業単元】 血液疾患・口腔心身症 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液疾患と口腔心身症の分類、症状、診断、治療法について理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔外科全般を理解できる。○×問題、記述問題		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 前半の内容をフィードバックできる。○×問題、記述問題			【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識の離開、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験40点、定期試験60点の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児歯科学 (Pediatric Dentistry)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1組2時限/2組1時限
【授業の学習内容と心構え】 小児歯科専門医が小児歯科全般について専門的知識と技術を習得する講義を行う。							
【到達目標】 発育過程にある小児の心身および歯列・咬合の成長発育の変化について理解するとともに、小児の歯科医療の特性を知り、口腔保健の重要性と口腔疾患の予防、治療についての知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本 小児歯科 (編)全国歯科衛生士協議会 医歯薬出版				【授業外における学習】 予習復習を行うことで講義の理解度はぐっと高まります。前後の講義内容の関連や、他の科目との関わりを意識して講義を受けてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児歯科学の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科医学における小児歯科学の意義を理解する。			9	【授業単元】 小児のう蝕予防 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期のう蝕の発症と進行を効果的に予防するために、小児期のう蝕特徴と発症の危険因子を理解し、その対処法を修得する。		
2	【授業単元】 小児の心身の発育 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児患者の成長発育を評価するために必要な知識と評価法を修得する。			10	【授業単元】 小児の麻酔法、歯冠修復 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期の成長に伴う歯と顎口腔機能の変化に適応した歯冠修復の診療において、乳歯と幼若永久歯の特徴を理解し、その修復法を修得する。		
3	【授業単元】 小児患者の対応法 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科診療時に際して小児の適応行動を得るために、小児期の情動の発達を理解し、行動管理のための対応法とその選択について修得する。			11	【授業単元】 小児の歯内療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の歯と顎口腔機能の発育に適した歯内療法を行うために、乳歯と幼若永久歯の特徴を理解し、その修復法を修得する。		
4	【授業単元】 顎顔面頭蓋の発育・口腔機能の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の成長発達の変化に対応するために、顎顔面頭蓋の器官の発生、成長・発育と乳児期からの口腔機能の発達を理解する。			12	【授業単元】 小児の外科的処置、歯の外傷、口腔軟組織疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期に起こる歯の外傷や、顎骨病変、口腔軟組織疾患の診療に際して適切に対応するために、その適応症と術式を理解し、必要な知識と技術を修得する。		
5	【授業単元】 歯列・咬合の発育と異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 健全な歯列・咬合の発育と顎口腔機能の発達を誘導するために、歯列や咬合の発育過程の特徴やその評価法について修得する。			13	【授業単元】 小児の咬合誘導 【授業形態】 講義 【到達目標】 健全な永久歯咬合を誘導するために、正常な成長過程をふまえ、不正咬合の発生因子を理解し、その対応法を修得する。		
6	【授業単元】 歯の発育と萌出 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯の発育過程とその予測に基づく診断と治療方針を決定するために、歯の発育過程と発育異常について理解する。			14	【授業単元】 小児の定期的管理について 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児歯科診療に際して小児の環境因子をふまえた診療の進め方と、リコールの意義を理解する。		
7	【授業単元】 小児のう蝕 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期のう蝕の予防と治療を効果的に行うために、乳歯と幼若永久歯のう蝕について理解する。			15	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。		
8	【授業単元】 中間試験 & 小児の歯周疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 当科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。小児の歯周疾患について理解する。			【評価について】 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計で判定する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科矯正学 (orthodontics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1組1時限 2組2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 矯正歯科を専門とする歯科医師が授業を担当する。 歯科衛生士としての役割を理解し、歯科矯正学の基本的知識と矯正治療に用いる器具の用途について理解する。							
【到達目標】 歯科矯正学の基礎知識を理解する。 矯正治療の目的・治療の流れについて理解する。 不正咬合の種類や治療に必要な装置・器具を説明できる。 矯正治療での歯科衛生士の役割を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 新・歯科衛生士マニュアル 歯科矯正学 (クインテッセンス出版株式会社)				【授業外における学習】 器具や装置の種類が多いのでそれぞれの名称・目的などを復習することが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科矯正学概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 矯正歯科治療の目的やどのような治療かを学ぶ。 矯正歯科での歯科衛生士の役割を学ぶ。			9	【授業単元】 矯正装置と矯正歯科治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 装置の種類、使用目的、構造を学ぶ。		
2	【授業単元】 成長・発育 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭部・顎顔面の成長発育の概要を学ぶ。 Scammonの成長発育について説明できる。 機能の発達について理解する。			10	【授業単元】 矯正歯科治療の実際① 【授業形態】 講義 【到達目標】 不正咬合の種類、特徴を学ぶ。 矯正歯科の治療の流れについて理解を深める。		
3	【授業単元】 咬合 【授業形態】 講義 【到達目標】 正常咬合について説明できる。 不正咬合の原因について理解する。 不正咬合の障害について学ぶ。			11	【授業単元】 矯正歯科治療の実際② 【授業形態】 講義 【到達目標】 不正咬合の種類、特徴を学ぶ。 矯正歯科の治療の流れについて理解を深める。		
4	【授業単元】 矯正診断 【授業形態】 講義 【到達目標】 矯正診断に必要な検査について説明できる。 頭部エックス線規格写真の目的について理解する。			12	【授業単元】 矯正歯科における口腔衛生管理 【授業形態】 講義 【到達目標】 矯正治療中のプラークコントロールについて説明できる。 口腔筋療法について理解する。		
5	【授業単元】 矯正力と顎整形力 【授業形態】 講義 【到達目標】 器械的矯正力と機能的矯正力について理解する。 歯の移動様式を説明できる。 歯の移動に伴う組織変化を理解する。			13	【授業単元】 矯正治療における補助と指導 【授業形態】 講義 【到達目標】 可撤式矯正装置の使用方法について理解する。 固定式矯正装置の装着・撤去の流れについて学ぶ。		
6	【授業単元】 矯正歯科用の材料・器具① 【授業形態】 講義 【到達目標】 矯正歯科治療に用いる材料や器具について理解する。			14	【授業単元】 総まとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 全講義における要点について復習し、理解を深める。		
7	【授業単元】 矯正歯科用の材料・器具② 【授業形態】 講義 【到達目標】 矯正歯科治療に用いる材料や器具について理解する。			15	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯科矯正学全体の講義内容の理解を深める。		
8	【授業単元】 中間試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回から第7回までの講義内容に関する理解を深める。			【評価方法について】 評価は記述試験にて行う。講義に関する内容について、専門知識の理解度および定着度を評価する。評価は中間試験(40点)および定期試験(60点)の合計を100点に換算し評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	高齢者歯科学	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Dental Care for Aged)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期
学科・専攻	歯科衛生士科					曜日・時間	木曜日 1・2時限/3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
大学院で誤嚥性肺炎の予防に関する研究を行った後に、大学の附属病院にて高齢者および障害児・者に対する摂食嚥下リハビリテーションや訪問診療に従事する教員が担当する。臨床において高齢者と接するうえで必要な知識や技術を身につけ、高齢患者に寄り添った対応ができる医療者を目指すための授業を行う。日本における高齢者を取り巻く環境や社会と歯科医療に関連にする法律や施設に関する知識に加えて高齢者の生理的および心理的变化に関する知識などを臨床現場の実情を踏まえて学んでいく。日常生活においても高齢者と接することも多くあるため、授業で身につけた知識や経験を実際の臨床現場でも大いに役立ててほしい。							
【到達目標】							
高齢者特有の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、高齢者に対する口腔疾患の予防法、治療に対する介助法を考える。また、在宅や施設内の要介護高齢者に対する歯科の関わりを学び、歯科衛生士として必要な知識と役割を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第三版 末永書店 配布資料				授業で習得した知識を参考に臨床で高齢者に適した対応を行い、フィードバックを自己で行うことによって知識を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 高齢者歯科学において学ぶ内容の概要を知る 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者歯科学の概要を説明する 高齢者歯科学を学ぶ目的を述べる 高齢者の定義を述べる 日本における高齢者について説明する			9	【授業単元】 摂食機能の発達から減退までを理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食機能発達過程を説明する 摂食機能の発達期の障害を述べる 加齢と摂食機能の関係を列記する		
2	【授業単元】 高齢者の特徴を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者の身体的特徴を述べる 高齢者の心理的特徴を述べる 高齢者の社会的特徴を述べる 高齢者との接し方を説明する			10	【授業単元】 摂食嚥下のしくみとその障害について理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食嚥下障害の原因を述べる 摂食嚥下障害の症状を述べる 摂食嚥下機能の評価を述べる		
3	【授業単元】 高齢者の口腔内の実態と加齢による変化を知る 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 高齢者の口腔内の実態を述べる 高齢者の口腔内の加齢変化を述べる 高齢者の歯の加齢変化を述べる 加齢による口腔機能の低下を述べる			11	【授業単元】 リハビリテーションについて理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 リハビリテーションについて理解する 摂食嚥下リハビリテーションの意義を述べる 摂食嚥下リハビリテーションの手技を具体的に述べる		
4	【授業単元】 高齢者の口腔疾患について理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 加齢に関連する口腔疾患を述べる 口腔疾患の原因を述べる 口腔疾患への対応を述べる			12	【授業単元】 訪問診療の実態を知る 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 訪問歯科診療の意義を説明する 訪問指導の留意点を述べる 要介護者と介護者の接し方について述べる		
5	【授業単元】 高齢者によくみられる全身疾患について理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科治療について注意が必要な疾患を述べる 認知症患者への対応について説明する 介護者への対応について説明する			13	【授業単元】 高齢者を取り巻く社会の仕組みと歯科衛生士の役割を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 介護保険制度について説明する 介護保険と歯科との関わりを説明する 高齢者に対する歯科衛生士の役割を述べる		
6	【授業単元】 脳血管障害とその後遺症がある患者への対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 脳血管障害について述べる 脳血管障害の後遺症を説明する 脳血管障害後遺症のある患者への対応について説明する			14	【授業単元】 老人施設における歯科衛生士の役割を認識する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 老人施設を列挙する 各老人施設の特徴を述べる 老人施設を支える専門職について説明する		
7	【授業単元】 口腔ケアについて理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 口腔ケアの定義を述べる 口腔ケアの意義を説明する 高齢者の状態を把握する指標を述べる 口腔ケアの方法を具体的に説明する			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の前半の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する			【評価方法について】 【中間試験】:40点 筆記試験:選択問題、記述問題 【定期試験】:60点 筆記試験:選択問題、記述問題 中間試験と定期試験の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に順ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	障害者歯科学 (Special needs dentistry)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1組2時限/2組1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
教員紹介：日本小児歯科学会専門医、日本障害者歯科学会認定医。日本歯科大学附属病院小児歯科所属。千葉県千葉リハビリテーションセンターの非常勤歯科医師も兼務し、小児歯科、障害者歯科に従事している。 医療の進歩が目覚ましい現代において、障害を持つ方も数も多くなることが予測されます。障害を持つ方への歯科治療は考慮することも多く、治療が必要にならないよう予防がとても大切です。歯科衛生士が大いに活躍できる分野なので、一つのビジョンとして将来に役立ててもらえればと思います。							
【到達目標】							
歯科衛生士の障害者歯科における役割を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
『最新歯科衛生士教本 障害者歯科』全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版株式会社)・配布資料							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 障害者歯科の特性と役割 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害を有する患者に対する歯科診療を安全に行うために、障害者歯科の特性と役割を理解する。			9	【授業単元】 行動調整と歯科診療 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者に安全な歯科治療を提供するために、障害別に全身状態に配慮した行動調整法と歯科診療補助方法を理解する。		
2	【授業単元】 障害者の歯科診療1(知的能力障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 知的能力障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			10	【授業単元】 障害者歯科における歯科衛生士の役割 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者に安全で円滑な歯科治療を提供するために、歯科診療補助時の留意点を理解する。さらに、口腔疾患を予防するために、それぞれの疾患の特徴に合わせた口腔ケアの具体的方法を理解する。		
3	【授業単元】 障害者の歯科診療2(脳性麻痺・その他身体障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			11	【授業単元】 摂食嚥下障害への対応1 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者の摂食・嚥下障害に対応するために、その評価方法とリハビリテーションの方法について理解する。		
4	【授業単元】 障害者の歯科診療3(脳性麻痺・その他身体障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 身体障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			12	【授業単元】 摂食嚥下障害への対応2 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害児・者の摂食・嚥下障害に対応するために、その評価方法とリハビリテーションの方法について理解する。		
5	【授業単元】 障害者の歯科診療4(ダウン症候群・その他遺伝子疾患) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ダウン症候群・その他遺伝子疾患を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			13	【授業単元】 授業内容の総まとめとフィードバック 【授業形態】 講義 【到達目標】 学習内容を整理・再確認し、歯科衛生士として必要な障害者歯科領域の知識を習得する。		
6	【授業単元】 障害者の歯科診療5(発達障害1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			14	【授業単元】 問題演習 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題演習を通じて、学習内容の再確認し、知識を習得する。		
7	【授業単元】 障害者の歯科診療6(発達障害2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達障害を有する患者に対応するために、特徴と歯科治療における留意点を理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 本科目の到達目標到達度の確認を行い、習熟度を判断する。			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法：選択・マークシート形式 定期試験(60点満点) 実施方法：選択・マークシート形式、記述問題			
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Prophylactic TreatmentⅢ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1組:1・2限 2組:3・4限
学科・コース	歯科衛生士科						
【授業の学習内容と心構え】							
歯科衛生士として長きに渡り、歯牙及び口腔の疾患の予防処置に取り組み、地域住民の健康増進に貢献してきた教員が、歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科予防処置の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】							
口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				講義・演習授業では専門用語が頻出するため、毎回の授業の復習をすること 実習授業では、講義の復習をして臨み、授業後は振り返りをしっかり行うこと 足りない部分は、放課後などを使い自主練をすること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科衛生介入(復習) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 超音波スケーラーを使用し歯石除去ができる 再沈着防止のための歯面研磨ができる			9	【授業単元】 歯科衛生介入 PMTC② 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 PMTCの使用器具を準備する PMTCの操作を習得する		
2	【授業単元】 歯科衛生介入(復習) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 超音波スケーラーを使用し歯石除去ができる 再沈着防止のための歯面研磨ができる			10	【授業単元】 歯科衛生介入 PMTC② 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 PMTCの使用器具を準備する PMTCの操作を習得する		
3	【授業単元】 歯科衛生介入(復習) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 超音波スケーラーを使用し歯石除去ができる 再沈着防止のための歯面研磨ができる			11 モリタ	【授業単元】 シャーピング 【授業形態】 講義 【到達目標】 シャーピングの目的を説明できる シャーピングに必要な器材を列挙できる		
4	【授業単元】 歯科衛生介入(復習) 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 超音波スケーラーを使用し歯石除去ができる 再沈着防止のための歯面研磨ができる			12 モリタ	【授業単元】 シャーピング 【授業形態】 演習 【到達目標】 手用スケーラーのシャーピングを習得する		
5	【授業単元】 歯科衛生介入 歯面清掃器(サブソニックブラシシステム) 【授業形態】 講義 【到達目標】 サブソニックブラシシステムの意義・必要性を理解する サブソニックブラシシステムの使用器具・操作法を理解する			13	【授業単元】 歯科衛生介入 歯面清掃器(エアポリッシャー)① 【授業形態】 講義 【到達目標】 エアポリッシャーの意義・必要性を理解する エアポリッシャーの使用器具・操作法を理解する		
6	【授業単元】 歯科衛生介入 歯面清掃器(サブソニックブラシシステム) 【授業形態】 講義 【到達目標】 サブソニックブラシシステムの使用器具を準備する サブソニックブラシシステムの操作を習得する			14	【授業単元】 歯科衛生介入 歯面清掃器(エアポリッシャー)① 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 エアポリッシャーの使用器具を準備する エアポリッシャーの操作を習得する		
7	【授業単元】 歯科衛生介入 PMTC① 【授業形態】 講義 【到達目標】 PMTCの使用器具を準備する PMTCの操作を習得する			15	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 PMTC シャーピング 歯面清掃器(サブソニックブラシシステム/エアポリッシャー)		
8	【授業単元】 歯科衛生介入 PMTC① 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 PMTCの意義・必要性を理解する PMTCの使用器具・操作法を理解する			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】 毎授業において指示したことはメモをとること。 講義においてノートをとること。							

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ (Prophylactic TreatmentⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1組:1・2限 2組:3・4限
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として長きに渡り、歯牙及び口腔の疾患の予防処置に取り組み、地域住民の健康増進に貢献してきた教員が、歯科衛生士のスペシャリストを目指す学生に、歯科予防処置の目的、重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。 歯科衛生士としてのやりがいや各処置の重要性を見つけ、医療従事者として必要なことは何かを考えながら受講してほしい。 実習がメインとなる授業のため、遅刻・欠席はできるだけせず、予習・復習をしっかりとって授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生のアセスメント・診断・計画立案・介入・評価そして記録ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論				【授業外における学習】 講義・演習授業では専門用語が頻出するため、毎回の授業の復習をすること 実習授業では、講義の復習をして臨み、授業後は振り返りをしっかり行うこと 足りない部分は、放課後などを使い自主練をすること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】 歯科衛生介入 歯面清掃器(エアポリッシャー)② 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 エアポリッシャーの使用器具を準備する エアポリッシャーの操作を習得する			24	【授業単元】 う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布① 【授業形態】 講義 【到達目標】 急性中毒への対応が説明できる。 フッ素の計算ができる。		
17	【授業単元】 歯科衛生介入 歯面清掃器(エアポリッシャー)② 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 エアポリッシャーの使用器具を準備する エアポリッシャーの操作を習得する			25	【授業単元】 う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布① 【授業形態】 講義 【到達目標】 急性中毒への対応が説明できる。 フッ素の計算ができる。		
18	【授業単元】 う蝕予防処置 シーラント 【授業形態】 講義 【到達目標】 シーラントの術式を理解し、操作できる。			26	【授業単元】 う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布② 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 フッ化物歯面塗布法の術式を理解し、安全を確保した状態で塗布できる。		
19	【授業単元】 う蝕予防処置 シーラント 【授業形態】 マネキン演習 【到達目標】 シーラントの目的・種類・術式・術後指導を説明できる。			27	【授業単元】 う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布③ 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 フッ化物歯面塗布法の術式を理解し、安全を確保した状態で塗布できる。		
20	【授業単元】 う蝕予防処置 う蝕活動性試験① 【授業形態】 講義 【到達目標】 う蝕活動性試験の目的、種類を理解する。 使用器材を説明できる。			28	【授業単元】 う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布③ 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 フッ化物歯面塗布法の術式を理解し、安全を確保した状態で塗布できる。		
21	【授業単元】 う蝕予防処置 う蝕活動性試験① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 う蝕活動性試験の目的、種類を理解する。 使用器材を説明できる。			29	【授業単元】 う蝕予防処置 フッ化物歯面塗布② 【授業形態】 相互演習 【到達目標】 フッ化物歯面塗布法の術式を理解し、安全を確保した状態で塗布できる。		
22	【授業単元】 う蝕予防処置 う蝕活動性試験① 【授業形態】 講義・予防プログラム立案 【到達目標】 う蝕活動性試験の目的、種類を理解する。 使用器材を説明できる。			30	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 筆記試験/解答解説 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをして復習する シーラント う蝕活動性試験 フッ化物歯面塗布		
23	【授業単元】 う蝕予防処置 う蝕活動性試験① 【授業形態】 講義・予防プログラム立案 【到達目標】 う蝕活動性試験の目的、種類を理解する。 使用器材を説明できる。			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 筆記 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記			
【特記事項】 毎授業において指示したことはメモをとること。 講義においてノートをとること。							

科目名	歯科保健指導論Ⅲ (Dental Hygiene InstructionⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 月・木曜3時限(1組)/月曜2時限・木曜4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験以外に公衆衛生活動なども経験した教員が、演習や講義を行います。 実際に小学校の歯みがき教室へ出向き、児童と交流します。各年齢に合わせた保健指導や媒体作製を通し、学齢期への理解を深めます。3年次の患者実習以降に使用する個人媒体も作製します。特に成人期から老年期の患者指導に活用できる媒体を自分の力で仕上げます。人前で発表したり直接指導する経験を積みます。							
【到達目標】 集団指導、個人指導それぞれの場面において対象者に適した歯科保健指導の知識と技術を習得する。 さまざまな年代の人々とのコミュニケーションを通し、対象者理解に努める。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版				【授業外における学習】 先にテキストを読んでおく。 身の回りの歯科商品にどのようなものがあるのか興味をもつ			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 学齢期の復習、地域歯科保健活動における健康教育 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 健康教育の対象や概要を説明できる 健康教育活動の方法を説明できる 小学校歯みがき教室の原案が作成できる			9	【授業単元】 成人期の復習、指導用紙作成 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 個々の状態に適した指導内容を考えることができる 実地指導の記入方法がわかる		
2	【授業単元】 学習指導案作成 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 学齢期の特性に応じた学習指導案が作成できる			10	【授業単元】 個人指導媒体作成 【授業形態】 個人ワーク 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる		
3	【授業単元】 集団指導媒体作成 【授業形態】 グループワーク 【到達目標】 学齢期の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる			11	【授業単元】 個人指導媒体作成 【授業形態】 個人ワーク 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる		
4	【授業単元】 集団指導媒体作成 【授業形態】 グループワーク 【到達目標】 学齢期の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる			12	【授業単元】 実技試験に向けてリハーサル 【授業形態】 演習 【到達目標】 実技試験に向けて適切な歯科保健指導ができるように準備を行う		
5	【授業単元】 集団指導媒体作成 【授業形態】 グループワーク 【到達目標】 学齢期の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる			13	【授業単元】 保健指導の実践(成人期) 【授業形態】 演習(ユニット) 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる		
6	【授業単元】 集団指導媒体作成 【授業形態】 グループワーク 【到達目標】 学齢期の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる			14	【授業単元】 保健指導の実践(成人期) 【授業形態】 演習(ユニット) 【到達目標】 人間の一生における各年代(ライフステージ)の特徴を理解し、支援できるようになる ライフステージ別の適切な歯科保健指導をできる		
7	【授業単元】 中間発表に向けてリハーサル 【授業形態】 演習 【到達目標】 中間発表に向けて適切な歯科保健指導ができるように準備を行う			15	【授業単元】 定期試験、媒体作製総括 【授業形態】 演習 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する		
8	【授業単元】 中間発表、集団指導媒体作成総括 【授業形態】 演習 本科目の到達目標の到達度の確認を行い、習熟度を判断する			【評価について】 評価は筆記試験や実技で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。 課題などの提出物、出欠、授業態度等も加味する。 試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 配布した資料は毎回持参しておくこと。 わからない用語はすぐに調べる。							

科目名 (英)	歯科衛生過程 (Dental Hygiene Process)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科衛生士が行う業務が理論的にどのようなプロセスを辿っているのかを知る。 アセスメント→診断→計画立案→介入→評価の流れを実際にどう行っているのかを想像しながらモデルを題材に実践してみます。 臨床実習に行きながら患者様を想定して授業に臨んでください。							
【到達目標】 歯科衛生過程の流れを理解し、臨床の場で役立てる。 歯科衛生士の仕事を理解し、業務記録として作成できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 よくわかる歯科衛生過程				【授業外における学習】 臨床実習で歯科衛生士が作成する業務記録を読んでから授業に臨んでください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯科衛生過程の基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 思考のプロセスを学び、構成要素を列挙できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯科衛生過程の進め方①アセスメント 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生アセスメントの内容を列挙できる SデータとOデータを分類することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 歯科衛生過程の進め方②診断 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 歯科衛生診断について理解し、適切な診断ができる 原因句、診断句の組み合わせができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 歯科衛生過程の進め方③計画立案 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 診断に基づいて介入の方法を計画することができる 目標設定を行い、次回までにどうなっていることを目指すのかを明確にできる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 歯科衛生過程の進め方④介入 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 計画を基に介入し、立てた目標を達成できるかを考え行動することができる 介入に必要な器材を選択することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 歯科衛生過程の進め方④介入 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 計画を基に介入し、立てた目標を達成できるかを考え行動することができる 介入に必要な器材を選択することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 歯科衛生過程の進め方⑤評価 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 介入した結果について、目標達成、未達成を評価することができる 自分の介入方法に問題がなかったかを考察できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 歯科衛生過程のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験で歯科衛生過程の流れや進め方の理解を深めることができる				【評価方法について】 中間試験: 40点 定期試験: 60点 合計100点満点で評価する 方法は記述を含む筆記試験で、歯科衛生士として科学的根拠を基に思考できるかを評価する		
【特記事項】							

科目名 (英)	口腔ケア (Oral Health Care)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 4時限(1組)3時限(2組)
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
講師は歯科医師で口腔外科認定医です。東京大学大学院で骨代謝の研究をしています。歯科医師国家試験対策予備校で講師として、資格試験の勉強法の指導経験がありますので、皆さんの役に立つ楽しい勉強法を伝授して参ります。口腔ケアは一般によく知られている用語ですが、幅広い内容を含んでいます。この授業だけでなく他の科目の知識も必要です。口腔ケアを理解し、正しく実践できるよう、各回の授業内容を他の科目と関連付けて整理するようにしましょう。							
【到達目標】							
歯科衛生士に必要な口腔ケアの基礎知識を修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
1. 日本口腔ケア学会 編、口腔ケア基礎知識、永末書店 2. 日本口腔ケア学会 編、日本口腔ケア学会認定資格標準テキスト(3級・4級・5級)、医歯薬出版				認定資格取得のため教材を使用した自習が望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔ケアの定義・口腔の仕組みを説明できる。口腔の観察のポイントを説明できる。口腔ケアの目的を説明できる。口腔ケアの方法を説明できる。口腔ケアにおけるチームケアの重要性を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯磨き・うがい 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔ケアに使用する用具を説明できる。自分で歯磨きできない人への対応について。うがいの方法、実施時の注意点を説明できる。含嗽薬の種類と成分、うがいできない人のケアの方法、高齢者・子供の嗽の方法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 義歯・口臭 【授業形態】 講義 【到達目標】 義歯使用者の対応法について説明できる。義歯の種類、着脱法、管理について説明できる。口臭のある人の対応や口臭の原因、また口臭のある人の口腔ケアについて説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔ケアの基礎知識、実践について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 体に障害や病気のある人・口腔乾燥 【授業形態】 講義 【到達目標】 体に障害がある人、様々な病気を有する人への対応を説明できる。口腔乾燥の原因、口腔乾燥を呈する疾患、口腔乾燥のある人の対応について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 むし歯(う蝕)と歯周病・摂食嚥下障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 むし歯(う蝕)と歯周病の予防について説明できる。むし歯の成因、予防法、歯周病とは、歯周病の予防法、歯周病と生活習慣について説明できる。摂食・嚥下障害者の口腔ケアについて説明できる。摂食・嚥下障害の検査法、摂食・嚥下障害がある人の対応法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 出血・在宅・その他 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯肉出血の原因について説明できる。口腔ケア時の歯肉からの出血の対応について説明できる。在宅高齢者の対応法を説明できる。在宅での口腔ケアの問題点と対応法、家族あるいは在宅介護者への指導法について説明できる。その他の特別な配慮が必要な方の対応法を説明できる。口腔機能の改善のための訓練法、口腔ケア実施中の偶発事項への対応法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔ケアの基礎知識、実践について説明できる。				【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験		
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅲ (Assisting for Dental PracticeⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1・2時(1組)3・4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験のある教員が、診療補助の授業を行う。歯科診療補助論Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を基礎に近年の高度歯科医療や様々なライフステージ、ライフスタイルの患者へ安心安全な医療の提供が出来る知識と技術の習得を目指します。 歯科診療補助論Ⅰ、Ⅱで学んだことを必ず復習して授業に臨んで下さい。また小テストの内容は必ず復習して下さい。							
【到達目標】 歯科診療補助論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識、技能を基盤に専門科目で学んだ知識に応用できる技能を習得する。 臨床実習時、専門的な歯科診療にも対応できる知識と技能を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎				【授業外における学習】 実習前には講義の内容を確認し、何を何のために実習するのかを把握する。 実習後は教科書、配布プリントを見直し、実習の内容を復習することが望ましい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1.2	【授業単元】 暫間被覆冠作製法① 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 暫間被覆冠の目的を列挙することができるようになる 即時重合レジンを通切に取り扱うことができるようになる ストレートハンドピースの取り扱いができるようになる			16.17	【授業単元】 歯内療法時の診療補助 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 歯内療法における基本的な術式を理解することができるようになる 術式に応じた器具、機材を適切に準備することができるようになる 各器材の名称、役割、形状を列挙することができるようになる		
3.4	【授業単元】 暫間被覆冠作製法②(既製冠法) 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 暫間被覆冠の目的を列挙することができるようになる 即時重合レジンを通切に取り扱うことができるようになる ストレートハンドピースの取り扱いができるようになる			18.19	【授業単元】 口腔外科時の診療補助 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 口腔外科における基本的な術式を理解することができるようになる 術式に応じた器具、機材を適切に準備することができるようになる 各器材の名称、役割、形状を列挙することができるようになる 歯肉包帯材の取り扱いができるようになる		
5.6	【授業単元】 暫間被覆冠作製法③(直接法) 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 暫間被覆冠の目的を列挙することができるようになる 即時重合レジンを通切に取り扱うことができるようになる ストレートハンドピースの取り扱いができるようになる			20.21	【授業単元】 補綴治療時の診療補助 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 義歯(局部床義歯、全部床義歯)作成における基本的な術式を理解する 補綴物の種類や装着の流れについて理解することができる 各器材の名称、役割、形状を列挙することができるようになる		
7.8	【授業単元】 暫間被覆冠作製法④ 仮着材について 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 暫間被覆冠の目的を列挙することができるようになる 即時重合レジンを通切に取り扱うことができるようになる ストレートハンドピースの取り扱いができるようになる 仮着材について理解することができる			22.23	【授業単元】 矯正治療時の診療補助 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 矯正治療における基本的な術式を理解することができるようになる 術式に応じた器具、機材を適切に準備することができるようになる		
9,10	【授業単元】 保存修復時の診療補助①(コンポジットレジン修復) 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 成形歯冠修復時の補助が実施出来る コンポジットレジンの取り扱いを理解する コンポジットレジン充填の器具や用途を理解する			24.25	【授業単元】 小児歯科時の診療補助 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 小児の特徴を理解し、患児と術者の安全に配慮した診療補助技術を身に付ける 術式に応じた器具、機材を適切に準備することができるようになる		
11.12	【授業単元】 保存修復時の診療補助②(メタルインレー修復) 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 成形歯冠修復時の補助が実施出来る メタルインレー修復の必要器具等の取り扱いを理解する メタルインレー修復の器具や用途を理解す			26.27	【授業単元】 歯周外科時の診療補助 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 歯周外科時の使用時の材料を理解することができる フラップ手術時の器具器材を適切に取り扱うことができる		
13.14	【授業単元】 接着性レジンセメント(スーパーボンド)について 【授業形態】 講義＋演習 【到達目標】 接合の種類を理解できるようになる 接着性レジンセメントを適切に取り扱うことができるようになる 筆積み法の取り扱いができるようになる			28.29	【授業単元】 模型作製(ホワイトニング用カスタムトレー) 【授業形態】 【到達目標】 カスタムトレー用石膏作製を理解することができる モデルトリマーを適切に取り扱うことができるようになる		
15	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 筆記テスト 講義 【到達目標】 これまでの内容が理解できているを確認する			30	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 筆記テスト 講義 【到達目標】 これまでの内容が理解できているを確認する		
【特記事項】				【学習評価】 筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	医療安全学 (Medical Safety Science)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 3時限(1組)4時限(2組)
【授業の学習内容と心構え】 歯科衛生士として臨床経験のある教員が、診療補助論Ⅰで学んだ医療安全の知識を実際に臨床の場で活かせるように復習をしていくと同時に緊急事態の予防策や救急知識も習得します。他の科目と連携している項目も多く、臨床の場で直接役立つことの多い科目となりますので各自、復習を行うようにして下さい。							
【到達目標】 臨床の場で確実な医療安全が行えるよう知識を習得する インシデントの予防策が考案できるようになる 緊急時に対応できる知識を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士教育サブテキスト 医療安全 クインテッセンス出版株式会社				【授業外における学習】 臨床実習でまず評価されるのは感染対策を習得出来ているか否かだと思います。1年時に学習した内容の復習も多いので、臨床実習で自分で考えて行動できる知識を身に付けて下さい			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】リスクマネジメント 【授業形態】講義 【到達目標】 リスクマネジメントの概要を理解する 事故発生要因の概要を習得する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 事故防止のためのポイント 【授業形態】 講義 【到達目標】 システムアプローチの概要を理解する 医薬品、医療機器の管理方法を習得する インシデントとアクシデント インシデントの事例を検討し予防策が考案できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 感染防止対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 感染の基礎知識を理解する 標準予防策 手指消毒 洗浄・消毒・滅菌				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】全身疾患と歯科・特別な配慮が必要な患者 【授業形態】講義 【到達目標】 各種疾患の特徴と歯科診療時における注意事項を理解する 高齢者、障がい有する患者の特徴や注意点を理解し患者来院時に対応出来る知識を習得する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】歯科診療時に起りえる偶発事故への対処法 【授業形態】 講義(救命救急士科・菊川先生) 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】一次救命処置 【授業形態】 講義(救命救急士科・菊川先生) 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する 抽出された課題の何が分からなかったのかを特定する				【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識、技術の理解、定着度を確認する。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	歯科放射線学 (Dental Radiology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	歯科衛生士学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1組3時限/2組4時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師として歯科教育・臨床・研究に長く取り組み、歯科放射線学に関する豊富な知識と歯科エックス線撮影に関する熟達した技術を有する教員が、将来の歯科衛生士を目指す学生を対象に歯科放射線学に関する専門知識を教授する。エックス線をはじめ、放射線は歯科臨床で非常に有用なものであるが、反面、人体に負の影響を及ぼす可能性もあるので、放射線に関する正しい知識を確実に習得してほしい。ぜひ積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい。授業時間数が限られているので、できるだけ遅刻や早退、欠席をしないこと。							
【到達目標】 放射線に関わる歯科衛生士業務を臨床現場で実践するために必要な知識と態度を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士テキスト『わかりやすい歯科放射線学』、第3版第4刷、2022年、学建書院				【授業外における学習】 教科書の各章に掲載されているQRコードを活用し、授業内容を動画で確認して理解を深めること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 放射線とエックス線、放射線の影響 【授業形態】 講義 【到達目標】 電磁放射線と粒子放射線の違いを説明できる。 放射線の実効線量(シーベルト;Sv)を説明できる。 光電効果とコンプトン効果を具体例を挙げて説明できる。 放射線の確定的影響と確率的影響の違いを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯科用エックス線撮影装置とエックス線画像の形成 【授業形態】 講義 【到達目標】 口内法エックス線撮影装置のヘッドの構造を説明できる。 歯科用エックス線フィルムの特徴(構造,規格,感度)を説明できる。 増感紙とエックス線グリッドの役割を説明できる。 エックス線写真のコントラストと鮮鋭度を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 撮影法(口内法) 【授業形態】 講義 【到達目標】 口内法で用いられる4つの主要な撮影法を説明できる。 口内法撮影の事前準備をフローチャートにして説明できる。 口内法撮影の失敗原因を6つ以上列挙できる。 口内法エックス線写真の保管方法を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 試験 【到達目標】 教科書1～5章の学習内容に関する歯科衛生士国家試験レベルの問題を正しく解答できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 撮影法(口外法) 【授業形態】 講義 【到達目標】 パノラマエックス線撮影の原理と手順を説明できる。 頭部エックス線規格撮影の方法と手順を説明できる。 CT, CBCTおよびMRIの特徴を説明できる。 USと造影検査法の特徴を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 フィルム処理、デジタルエックス線システム、正常・病変画像 【授業形態】 講義 【到達目標】 エックス線フィルム処理の流れをフローチャートにして説明できる。 デジタルエックス線システムの特長を説明できる。 固体半導体方式とIP方式の利点と欠点を述べるができる。 代表的な歯科疾患のエックス線画像を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 放射線の防護と管理、放射線治療、総まとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 放射線防護の3原則を説明できる。 放射線被曝の3分類を説明できる。 エックス線撮影で患者被曝を軽減する方法を3つ以上列挙できる。 放射線治療による障害を早期障害と晩発性障害に分類できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 試験 【到達目標】 歯科放射線学に関する問題を正しく解答できる。				【評価について】 評価は筆記試験で行う。試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点とする。いずれも多肢選択形式の問題を出題し、歯科放射線学に関する専門知識の習得度を評価する。 総合評価および修了判定は、学則ならびに学則施行細則に基づいて行う。		
【特記事項】							

科目名 (英)	審美歯科 (esthetic dentistry)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1～4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 歯科医師として臨床現場で活躍中の講師が担当する。 ホワイトニングに関する知識を習得することで、ホワイトニングの特徴をより学術的に患者に対して説明することが出来るようになる。 セラミック修復の特徴を習得することで、審美的な観点だけでなく材料的な優位性を踏まえて患者へ説明ができる。 実際にホームホワイトニングの治療過程を体験することで、患者の立場に立った説明ができる							
【到達目標】 審美歯科におけるホワイトニングの特徴、注意点および術式を理解する。 セラミック修復の特徴について、材料学、補綴学、保存修復学の観点から理解する。 ボトックス治療の歴史、適応症、治療の流れについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
1～8回:上下顎石膏模型(できれば硬質石膏なければ普通石膏でも可) 9～15回:配布資料				授業の前に授業内容に関する項目を予習し、授業後の復習では書き留めたノートをまとめ整理しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 ホワイトニングについて理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 患者への心理やニーズを理解し、オフィスホワイトニングの種類、特徴を理解する			5	【授業単元】 包括的歯科診療における審美歯科のあり方 【授業形態】 講義 【到達目標】 基礎歯科科目や臨床歯科科目を総合的に捉えた包括的な診療を学び長期的予後を求める審美歯科を理解する。		
	【授業単元】 ホームホワイトニングについて理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 ホームホワイトニングの使用方法、背景、患者の心理やニーズをクイズ形式で理解する				【授業単元】 歯周組織を考えた審美治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯周組織の基本的な知識を審美的な観点から捉え一口腔単位の治療を理解する。		
2	【授業単元】 カスタムトレー作成 【授業形態】 講義 【到達目標】 ホームホワイトニングのカスタムトレーの作成方法を理解する			6	【授業単元】 歯列・欠損に関する審美歯科 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯の位置や大きさ、顎骨の調和がもたらす顔貌について理解する。		
	【授業単元】 カスタムトレー作成 【授業形態】 講義 【到達目標】 ホームホワイトニングのカスタムトレー作成方法を理解する。 ホワイトニングについて中間試験				【授業単元】 審美修復を考える歯科材料 【授業形態】 講義 【到達目標】 コンポジットレジンに適応症を理解し組成や術式、評価方法を審美治療の観点から学ぶ。		
3	【授業単元】 セラミックを理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 光学印象の実践、CAD/CAMを理解し、治療の流れを把握する、セラミックの種類について理解する			7	【授業単元】 審美補綴を考える歯科材料 【授業形態】 講義 【到達目標】 審美補綴の種類を適応範囲で理解し、選択する材料の特性を学ぶ。		
	【授業単元】 シェードテイキングについて理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 技工士サイドからみたシェードテイキングについて理解する				【授業単元】 デジタルデンティストリー 【授業形態】 講義 【到達目標】 CAD/CAMをはじめとしたデジタルを活用した歯科診療は、現在どれくらい進歩しているのかを学ぶ。		
4	【授業単元】 セラミックを理解する 【授業形態】 講義 【到達目標】 セラミックの特徴や利点、欠点、治療の流れを理解する			8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 審美歯科を単科として捉えず複合的な視線で関係性を理解し術式や使用材料、器具への知識を確認する。		
	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 ボトックス治療の適応症や方法について理解する ボトックス、セラミックについて定期試験			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識や用語を確認する。 中間試験40点、期末試験60点の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	インプラント	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(implantation)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1・2時限/3・4時限
学科・専攻	歯科衛生士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 1)インプラント治療の意義を理解する。2)インプラントアシスタントにおける歯科衛生士としての役割の重要性を理解する。3)インプラント治療の流れを理解する。4)清潔、不潔、滅菌の重要性を理解し、インプラント手術のアシスタントを実践できる。5)インプラント手術、上部構造製作の手順、それらの過程におけるアシスタントワークを覚え、理解する。6)インプラントのメンテナンスの重要性を理解する。							
【到達目標】 1)インプラント治療の意義を理解する。2)インプラントアシスタントにおける歯科衛生士としての役割の重要性を理解する。3)インプラント治療の流れを理解する。4)清潔、不潔、滅菌の重要性を理解し、インプラント手術のアシスタントを実践できる。5)インプラント手術、上部構造製作の手順、それらの過程におけるアシスタントワークを覚え、理解する。6)インプラントのメンテナンスの重要性を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書:歯科衛生士のためのインプラントアシスタント 医歯薬出版株式会社 補充教材:特になし				【授業外における学習】 教科書の熟読をお勧めする			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 インプラント基礎編(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・インプラント治療のメリットを理解する ・インプラント治療に関わる歯科衛生士の役割を理解する ・インプラントの基本構造を理解する ・現在使用されているさまざまなインプラントを知る ・インプラント治療が出来ない患者さんを知る ・インプラント治療に必要な解剖学と放射線学を理解する ・インプラント治療の流れを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 インプラント基礎編(2)滅菌・清潔域不潔域 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・滅菌の定義や消毒との違いを理解する ・手術場においての清潔域と不潔域の違いを理解する ・インプラント手術での器材の準備と滅菌法を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 インプラント実践編(1)手洗い実習・術衣・手術用手袋の着用 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・インプラント手術の準備および手術の術式を理解する。 ・手術のための手洗いを理解する ・手術時の術衣および滅菌グローブの着用方法を理解する。 ・ドレーピングの手順を理解し実践できる ・手術中のモニタリングを理解する ・手術器材の片づけと管理方法を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 インプラント実践編(2)1次手術(埋入手術)・2次手術 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・1次手術の器具出しアシスタントと第1アシスタント(吸引)の目的を理解する ・1次手術の器具の受け渡し手順を実践できる ・2次手術について理解する ・患者への術後の注意事項を説明できる。 中間試験				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 インプラント実践編(3)補綴(上部構造の装着) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・インプラント治療における補綴処置(アバットメントと上部構造)を理解する。 ・印象採取→咬合採取→上部構造装着までの一連の手順を理解する ・上部構造装着のアシスタントワークを理解し実践できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 インプラント実践編(4)メンテナンス 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・インプラント治療後にメンテナンスを行う目的について理解する ・メンテナンス時の診査項目を理解する ・メンテナンスの方法と手順を理解し実践できる ・患者さんとの信頼関係の確立について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 インプラント実践編(5)これからの衛生士に知ってもらいたいこと 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・患者さんの生活背景について興味をもつ ・患者さんの口腔と食事との関係の因果関係を知る ・患者のライフステージを理解する ・口腔とからだの健康について				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 解答解説を行いインプラントアシスタントの理解を深める				【評価方法について】 中間試験(40点)定期試験(60点)で判定する		
【特記事項】 科目目標を達成する そのためには使用教科書を十分理解する							

科目名 (英)	歯科看護学(臨床検査含む) Dental Nursing Science(Clinical examination)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1組3時限/2組2時限
【授業の学習内容と心構え】 医療従事者として必要とされる基本的な臨床検査について知識、技能、態度を習得することを目的とする。歯科衛生士として、ヒトの病態を臨床検査というエビデンスを持って知ることができるように、臨床検査の基本的知識と、病気を持つ患者に対応するうえで必要な最低限の態度と技能を修得することである。							
【到達目標】 医療人として経験すべき診察法・検査・手技、経験すべき症状・病態・疾患ならび特定の医療現場の経験等を身につける。歯科技工士として根拠を持った診断、治療、予後経過をみていくための病態論を学んでほしい、これから関わる歯科医療の場においてそれらのエビデンスが臨床検査によって導かれることを応用する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本、臨床検査(監修)全国歯科衛生士教育協議会、医歯薬出版				【授業外における学習】 臨床検査値の読み方 栗原毅 監修 成美堂出版			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 臨床検査とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 臨床検査の倫理と安全性について説明できる。 - 臨床検査はなぜ必要かを理解できる - 臨床検査の実際と検査成績の読み方を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 生体検査とは 1 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 体温検査について説明できる - 脈拍検査について説明できる - 血圧検査について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 生体検査とは 2 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 心機能検査について説明できる - 肺機能検査について説明できる - 筋電図検査について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 血液を用いる検査とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 中間試験 ・血液検査、血液凝固検査、生化学検査、免疫検査、血液型検査について説明できる - 感染症検査 ・病理検査について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 口腔領域の検査とは 1 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 口臭検査、味覚検査、歯科アレルギー検査について説明できる - 舌の検査、口腔粘膜の検査、唾液の検査について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 口腔領域の検査とは 2 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 歯周組織の検査について説明できる - 歯の検査について説明できる - 根管内細菌培養検査について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 摂食・嚥下関連の検査とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 - 摂食・嚥下関連のスクリーニングテストについて説明できる - 摂食・嚥下障害の検査法について説明できる - 疾患・病態別検査値について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は、筆記試験でおこなう。授業内で確認した、専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義においてノート丁寧にとること。							